

# 現地理理解教育・国際交流

## — 星日交換学生プログラム —

前シンガポール日本人学校中学部 教諭

熊本県熊本市立二岡中学校 教諭 下川 聖 實

キーワード：現地理理解，国際交流

### 1. はじめに

シンガポールは 面積699平方キロメートル（東京23区とほぼ同じ）という限られた土地に約448万人の様々な民族（中華系75.2%，マレー系13.6%，インド系8.8%，その他2.4%）の人たちが生活しておりその使用言語としては、国語はマレー語。公用語として英語，中国語，マレー語，タミール語とバラエティに富んでいる。生活・文化もそれぞれの特色を出しながら共存している。

本校の目指す教育の柱として現地理理解と交流教育の促進があげられるがこの紙面を使って，交流活動の一環である「星日交換学生プログラム」について述べたいと思う。

### 2. 活動の実際（現地校生徒との交流）

#### (1) 星日学生交換プログラム

本校は，シンガポールの現地校の生徒との交流を25年にわたって続けている。

これは，シンガポール日本人学校中学部における国際交流の大きな柱となっている。この「星日交換学生プログラム」は1984年12月，現地校の学生の本校への受入れにより実施されたのが始まりで，それ以来1度も欠かさず毎年引き継がれてきた「中学部の伝統的な学校行事」である。このプログラムは，4月と11月前後の年2回実施されていて，それぞれの学校の生徒の長期休業日を利用して行われている。4月を後期といい，本校の生徒が，それぞれ現地の協力校へ行き学習活動に参加する。一方11月を前期といい現地校の生徒が本校教育活動に参加することになっている。

現地校の参加者は，普段はそれぞれの学校に通っていて，その中の成績上位者だけが許される第三言語を学ぶために通うランゲッジセンターで日本語を選択している生徒たちである。日本語に興味のある生徒の集まりだけに本校での活動も非常に積極的である。

#### ①交流の実際

##### ○前期プログラム

本校で行われる前期交換プログラムは，毎年体育大会終了後より動き始める。ランゲッジセンターの窓口を担当している先生と打ち合わせをしながら日時や募集人数を調整していく。日時の決定とあわせて，本校では職員に対しての特設授業の募集を行う。特設授業は，通常授業では学べないような，日本の伝統行事や遊びなどを体験してもらおうとの配慮からもうけている。「折り紙」「剣玉」「琴」「百人一首」「柔道」等々いずれも，生徒たちは初体験で興味深く熱心に受講していた。また，残りの時間には所属するクラスの生徒と共に日本人学校の授業をそのまま受講する形となる。



## ○後期プログラム

このプログラムの準備は、年明けとともに始動する。本校にとって実施時期が4月の1日前後ということもあって、期日の調整から始まる。生徒にとっても、帰国するか否かの微妙な時期となるため応募はしたものの、急遽本帰国と言うことも無いではない。しかし、前期プログラム同様に生徒を集めてプログラムの内容を説明した後、募集をかける。そして、生徒達の性別・年齢・趣味などのデータを先の窓口担当の先生へ送り、マッチングリストを作ってもらふ。例年3月の第2週までに決定し、終業式前後にそれぞれの生徒に、「交流する生徒や訪問する学校名」が伝えられる。

この後期プログラムは、まさに生徒毎に訪れる学校が違うためそれぞれの体験をして帰ってくることとなる。

## ②生徒の感想・意見（ ）内は訪問した学校名

### ○後期プログラム参加本校生

(校の施設・設備について)

- ・広さが違う。非常に大きくグラウンドもたくさんあった。(RAFFLES)
- ・ドアの鍵が数字のロック式になっている。天井が高い。窓が常に開いている。教室にPCが置いてある。出席はEZリンクのようなものを当て取る。(HWA CHONG)
- ・Canteenがあり、そこで昼食を食べたり、勉強したりしていました。エアコンではなく、ファンを使っていました。(DUNMAN)
- ・ホワイトボード、中休みに食べに行く。チャイムの音が高い。部活が4時間。髪を結ばなければならない。前髪も眉毛の上に。Canteenがある。中休み、昼休みがある。部活が52ある。(RUFFLES Girls)
- ・スナックタイムがある。ある時間になると授業中でも飲み食い可。食堂有り。朝、昼にお祈り有り。エアコンなし。電子レンジがある。ぬいぐるみを持ってくること可。教室にお菓子が置いてあり、自由に食べて可。週一回ジョギングがある。テストは解答用紙が無く、ノートに答えを書いて提出。(St.Nichoolas)
- ・ホワイトボード使用。数学以外のほとんどの教科はプロジェクターを使って説明。ほとんど移動教室。カードで出席をとっている。席が決まっていない。制服がある。学食がある。ファンがある。(HWA CHONG)
- ・エアコンがなかった。厳しい先生が多かった。授業時間が科目により20分だったり、30分だったりと違っていた。中学生と高校生が同じ一つの所に通っていた。各クラスにシンガポールの国旗があった。朝会で国旗掲揚があった。(RIVER VALLEY)

(授業の様子について)

- ・ホワイトボードにはあまり書かない。毎朝全校集会がある。数学では $\sqrt{\quad}$ の計算、PCでは合成など難しいものを行っている。
- ・言語はほとんどが英語でした。生徒はみんな積極的に自分の意見を言っていました。少しでも分からないことがあったら、すぐに先生に聞いていました。
- ・中国語の授業では、先生が中国人で、内容はすべて中国語。そして、生徒が最初に授業のようなものを行い、所々に先生が説明を入れて、その後各自でプリントをとっていた。ほのぼのしている。社会では、世界史っぽいものやっていた。数学は関数っぽいものやっていたが、内容が日本人学校と随分違った。教科書を使っていない授業が多かった。
- ・生徒は9:00から9:15まで、Eating Timeで授業中でも物を食べて良い。授業中に立ち歩いたり、水を飲んだりする生徒がいる。12:00には授業を中断し、キリスト教の放送を聞く。
- ・同じ学年なのに、授業内容がとても難しかった。理科ではDNAの実験をした。生徒はボールペンで書いていた。
- ・毎日、数学・中国語・英語の授業がありました。理科だけでもChemistry, Biology, Physicsに分かれて、科目数

が多かった。授業はレベルが高く、生徒は真面目に受けていた。

・ノートを取る授業はあんまりなかった。チャイム着席や私語などのマナーがあまりない

(初めて知ったこと・生徒との関わり)

・とても朝早くからやっていて、まだ外が暗い内に出て行きます。

・日本と同じく科目によって先生が替わることに驚きました。この学校の生徒は日本語にも興味を持っているようで、たくさん生徒が日本語を習いに行っていました。

・日本人学校との教育のやり方が違い、全体的にゆったりとしていてちょっとびっくりした。予想ではもっと厳しいのかな？と思っていた。授業中に水を飲んでいたので驚いた。校舎内は土足で靴を履き替えるのは日本人学校だけだと再認識した。

・朝、国歌を歌っている。みなフレンドリーだった。廊下で会うと必ず挨拶してくれる。

・休み時間に勉強している人が多く驚きました。シンガポリアンが日本の芸能人に興味があったので話しやすかった。

・体育はほとんど走るだけ。人によって使う言語が違っていた。皆優しく親しみやすい。日本語を教えてきた。

・学校の決まりが多かった。(厳しかった)

#### ○前期プログラムに参加した現地校生徒

(What were the positive aspects of the school?)

・ The school is very clean and there are a lot of different lessons. The students are also well behaved.

・ Everybody is very friendly.

・ The school is very clean, big and cooling.

・ No school uniform, later school hours and relaxed pace.

・ Wide variety of classes and they are very interesting like the Japanese culture immersion classes.

(What were the negative aspects of the school?)

・ None

・ Not enough time to finish lunch.

・ Students not paying attention in subjects they don't like and some ignore the teachers at times.

・ No canteen.

・ Some teachers speak too softly.

(Was your impression of the school the same as you had expected?)

・ Principal greets every student at the school gate. It is extremely interesting to know such a friendly gesture being practiced here.

・ It is much cooler and bigger.

・ No, students do not have to wear uniforms and there are interesting activities like cleaning time and having lunch together.

・ It is bigger than expected; there is even a swimming pool.

・ I did not expect the classes to be so bonded; they can have a lot of fun together during breaks even if it is just 5 minutes.

・ I thought it would be stricter.

・ It is much more noisy than expected.

(Are there any comments besides the above?)

・ It was an enriching and beneficial experience, it helped me to improve my standard of Japanese.

・ The programme should be longer, about 1 week. A longer programme would have given us a chance to experience all the lessons in the school.

- ・ I learnt a lot more about the Japanese culture.
- ・ It was a very unique experience; it enriches our knowledge and lets us make more Japanese friends.

### 3. 最後に

このプログラムに参加した現地校や本校の生徒は、お互いにそれぞれの教育システムや環境の違いに驚きながら色々な経験をし、発見し充実した数日間を送ったことが分かる。また、この長く続くプログラムのため、本校の英会話の講師が以前このプログラムに参加した生徒であったりしたこともあった。更に、昨年度からはこのプログラム参加者の中から、その学校のプロジェクト学習の一環で本校中学生に「中国語を教える」グループが現れ、「サービスマスターニング」という名で4月から7月まで週2回ずつの学習会が開かれるようになった。今年で3年目・・・彼女たちの後輩がその活動を引き継ぐ形で交流が進んでいるところである。

このように、学校側で生徒同士の交流を企画し、運営していく事で新たな展開に発展してきている事実を非常に重く受け止めている。交流の中身については、その都度お互いの学校間で話し合いがなされその時々に応じて柔軟に対応しているのが長続きの要因の一つではないかと思う。日本人学校では、長くても3年サイクルで職員の異動がなされるので、担当者の引き継ぎを綿密に行いながら交流を続けている。こうした年毎交流の地道な積み重ねを今後も期待したい。